

土器川における地域連携の取り組みについて

香川河川国道事務所 工務第一課 専門官
工務第一課長
副所長

山崎 隆幸
中岡 昭浩
田中 裕

土器川では住民が地域で連携して活動する、熱i・土器川プロジェクトを立ち上げた。
また、災害に強い地域づくりを目指して、防災・減災・縮災ネットワークプロジェクトを立ち上げようとしており、この2つの取り組みについて紹介する。

キーワード 土器川、地域連携、防災士、地域のリーダー

1. はじめに

土器川は、香川県中央部に位置する幹川流路延長33km、流域面積127km²の一級河川である。

土器川流域の関係市町は丸亀市、まんのう町の1市1町で人口は約13万人（平成27年国勢調査）で、65歳以上の高齢者が人口の30%を占めている。

これからの河川管理について土器川と地域の関わりは将来を見て

- ① 河川の維持や環境保全等に対する協力団体による自発的な取り組みが必要。
- ② 河川敷地占用許可準則の改訂により、事業者等が行う営業活動の緩和。
- ③ 土器川との関わりは地域主体で考え、自発的に取り組む。

ことが求められる。

また、一方で地球温暖化に伴う気候変動の影響により、全国各地において大規模災害が頻発しており、中讃地域においても甚大な被害の発生が予想される。土器川では、近年、堤防決壊等の大規模な水害を経験していないことから、住民からも水害に対する危機意識の低下が指摘されている。

2. 熱i・土器川プロジェクト

土器川について、図-1のように地域住民が土器川を身近に感じて関心を持ち、主体的かつ継続的な利用や維持ができるよう、地域連携（住民・団体・企業・行政・大学の協働）による活動を進めるのはどうかと話し合い、以下の取り組みについて実施することになった。

- ① 土器川の魅力をみんなで高める。
- ② 土器川の知識や情報を共有する。

- ③ 川に学ぶ・遊ぶ使う機会を提供する。

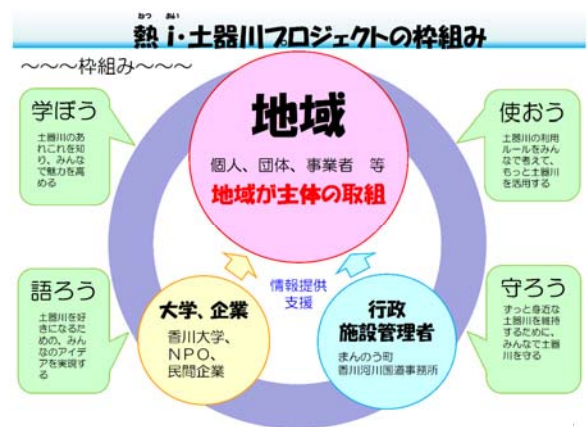


図-1 プロジェクトの仕組み

1) 熱i・土器川プロジェクトの由来

- 愛、会い、(出)遭い、合い、あい、相などなど
- 「information」、「ICT」、「IoT」、「AI」のように「情報」を示す場合や、「innovation」のように「技術革新」を示す場合、建設環境への配慮を示す場合の「愛（アイ）」などなど多くの意味を含む。
- i-Construction：調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスにおいて抜本的に生産性を向上させるという国交省が平成28年度から取り組んでいる重要な施策の一つもi。
- 土器川に地域のみなさまに関心をお持ち頂き、地域のみなさんが主役になって、土器川を利用し、守ってもらう。
土器川に対する熱い想いを持って頂けるようにみんながそれぞれご自身で「i」を考えてみる。・・・ちょっとかつこよく「i」を八

れてみて。

そして今、地域主体による土器川の利用と維持を目指す取り組み、「熱i・土器川プロジェクト」がスタートした。

2) 熱i・土器川プロジェクトの取り組み状況

熱i・土器川プロジェクトは始まりから2年半になる。平成30年1月に熱i・土器川プロジェクトのキックオフ・シンポジウム「第1回ズームアップ・土器川」を開催し90名の方が参加してプロジェクトを立ち上げた。



写真-1 第1回ズームアップ土器川開催状況

- ①土器川の魅力をみんなで高めるために、平成30年11月に、地元まんのう町の土器川に感心のある15名に参加頂き、香川河川国道事務所やまんのう町の職員といっしょに検討を行い、「土器川の河川利用の現状と課題」についての情報共有と、「土器川を『使おう』～土器川の利用について『語ろう』～」をテーマにワークショップを行った。

そして土器川「使おう」未来マップ、活動アイデア一覧表をみんなで作成した。

- ②土器川の知識や情報を共有するため、歴史、史実を掘り起こし史跡マップを作成した。
- ③川に学ぶ・遊ぶ機会を提供するためにまんのう町・香川大学と協力して「平成30年6月にまんのう町四條・吉野下魅力発見まち歩き」を29名が参加して実施した。これは四条地区、吉野下地区の土器川との関わりを地形・地質的に解説した。また平成30年の11月、令和元年の11月に土器川の成り立ちや昔の姿を学ぶ「土器川かわ歩き」について42名が参加して行われ、好評であったので今後も継続する予定である。



写真-2 土器川かわ歩き開催状況

3) これからの熱i・土器川プロジェクト

ワークショップはまんのう町からの要望によりまんのう町民限定で行ったが、集まってくれた方の年齢は70歳代が多く、次いで80歳代もそこそこ、60歳代は1名か2名程度で、高齢の方が多かった。

会合の際に「集まりに参加して意見を聞かれればお答えすることはできるが、プロジェクトを引っ張っていくことは体力的にも精神的にもしんどい。リーダは別に探してほしい。」とされている。

今まで官主導で進めた取り組みを、地元で自主的に進めるにはリーダの存在が不可欠である。

令和元年12月に行った、土器川のボランティア伐採参加者からアンケートにより意見を伺った。参加者は高松市と丸亀市からが主で、20歳代から50歳代が65%を占めており、意見交換の場への参加希望も50%程度あり、今後、リーダ誕生の検討余地はあると考えられる。

そのような中でまとめられた土器川を使う3つのテーマが下記のとおりである。

①生き物とふれあえる川（環境学習の場）

生き物と棲む、生き物とふれあえる川を取り戻す。

②土器川物語（地域の集いの場）

活動をプロジェクト化し樹木伐採と木の活用、食べる楽しむを実現する。

③ふるさとの風景（地域の憩いの場）

風景、言い伝え（文化）、花壇、桜並木、遊歩道、公園などを創出する。

河川管理上、予算的にもすぐに実行に移せない取り組みもあるが市町、学識者の助言をいただきながら取り組みを進めていきたい。

3. 防災・減災・縮災ネットワークプロジェクト

水防災意識社会 再構築ビジョンに基づき、「土器川大規模氾濫に関する減災対策協議会」で土器川の減災にかかる取り組み方針をとりまとめた。

土器川では、近年、堤防決壊等の大規模な水害を経験していないことから、水害に対する危機意識の低下が危惧されている。

課題への対応策として図-2のように地域住民の水防災意識の向上のため、防災士と連携した地域防災リーダの育成、公助と共助が連携した防災教育・訓練の仕組みづくりに取り組んでゆく。

また、地域防災力向上のため、地域コミュニティや自主防災組織の横の連携強化・つながりや活性化、地域連携による情報共有の仕組み作りに取り組んでゆく。

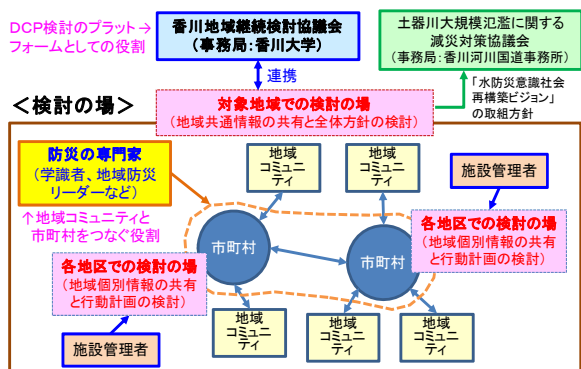


図-2 地域連携の仕組み

1) 防災・減災・縮災ネットワークプロジェクトとは

中讃地域における多種多様な組織・団体が連携することにより地域住民が迅速かつ的確な命を守る避難行動を実行できる避難支援体制づくりや、地域が迅速かつ柔軟な復旧・復興を成し遂げられる災害に強い地域づくりを目指して、「人材育成と地域連携の仕組みづくり」を継続的に推進することを目的とする。

中讃地域において中核となる「枠組み（組織、場）」を構築することにより、地域防災のプラットフォームを形成し、地域の既存組織と広くつながる環境を整備する。また、人材育成プロジェクトで地域防災リーダーの育成、地域連携プロジェクトで具体的な活動で実施することにより、地域の情報共有、地域活動の共同参画、災害時の協力体制などの新たな仕組みを醸成する。

2) 防災・減災・縮災ネットワークプロジェクトの取り組み状況

令和元年度に香川大学、香川県、丸亀市、まんのう町、中讃地区防災士会が参加して人材育成プロジェクトで地域防災リーダーの育成、地域連携プロジェクトで多種多様な組織との連携を可能にする仕組み作りのため、香川河川国道事務所が中心になって、図-3の意見交換会を実施した。アドバイザーとして香川大学四国危機管理教育・研究地域連携推進機構の先生方に参加いただいた。

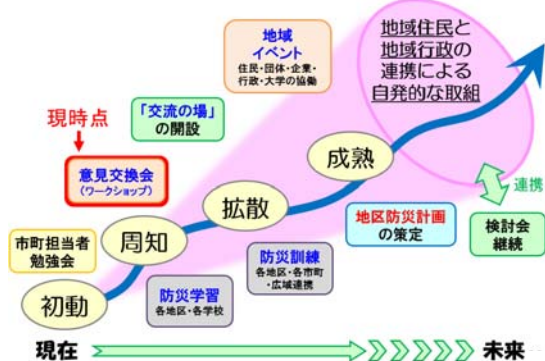


図-3 今後の展開イメージ

令和元年8月に第1回意見交換会を開催し、自主防災活動の現状把握と課題の抽出を行い、自主防災活動の現状、他地域での取り組み状況、課題の抽出について報告検討を行った。

令和元年10月に第2回意見交換会を開催し、新たな枠組みの提案、地域リーダーの育成、防災の専門家との連携について検討し、目標の抽出・行動メニューの抽出を行った。

令和元年11月に第3回意見交換会を開催し、第2回意見交換会で抽出された内容から実施する行動メニューを検討し、プロジェクトの達成目標を設定した。



写真-3 意見交換会開催状況

意見交換会で提案された、「防災・減災・縮災ネットワークプロジェクト」について令和2年度設立に向けて準備会を開催し、プロジェクトを始動する予定である。

3) これからの防災・減災・縮災ネットワークプロジェクト

意見交換会に参加したメンバー（香川大学、香川県、丸亀市、まんのう町、中讃地区防災士会、香川河川国道事務所）が中核となり、事務局を立ち上げる。

地区の自主防災会や社会福祉関連組織、町作り推進組織等に協力を呼びかけ参加を募る。

図-4に示すネットワークを構築し、プロジェクトを始動、2年を目処に将来の達成目標を設定し、その後の活動につなげる。

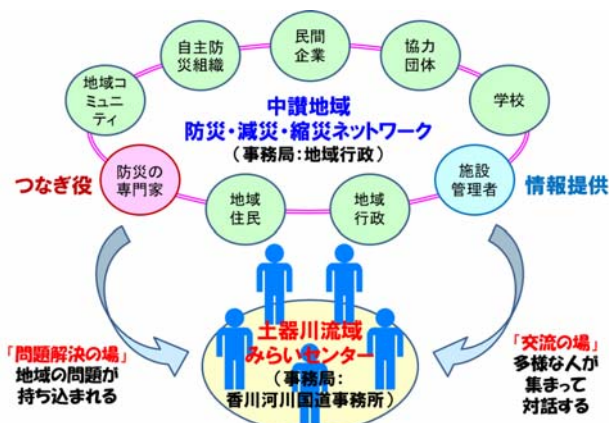


図-4 中讃地域防災・減災・縮災ネットワークの枠組みイメージ

主な内容については、下記のとおり、

(1) 人材育成プロジェクト

人材育成プロジェクトで地域防災リーダーの育成の案として防災士、自主防災組織の参加者をリーダーとして、子供や若者の防災学習の場を創設する。

- ・防災サロン・防災ゲーム大会（定期開催）
- ・リレー防災カフェ（地域コミュニティを巡回）
- ・防災サバイバルキャンプ
- ・親子一緒に避難訓練
- ・親子を対象にしたシンポジウムの開催

(2) 地域連携プロジェクト

地域連携プロジェクトで多種多様な組織との連携案として体験型防災訓練の場、地区防災計画の取り組みを実施する。

- ・地域イベントへの参加
- ・防災サバイバルキャンプ
- ・親子一緒に避難訓練
- ・モデル地区での地区防災計画の作成支援
- ・モデル地区での一斉避難訓練

防災・減災・縮災ネットワークプロジェクトはこれから準備会を立ち上げ、組織作りを行ってゆく。責任者の決定、活動資金の確保など自立した組織とするためのハードルは高い。

4. 今後の取り組み

地域連携の仕組み作りは、リーダーの不在、高齢化により、持続性のある取組に結びつかない現状があり、簡単にはいかない問題が多くあるが、iを持つ人がみんなで知恵を出し合いながら、リーダーの育成、若手担い手の育成など前に進めていきたい。

まだまた組織としては未熟であるがこれから成熟させていきたい。